

令和7年3月8日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立宮前小学校
学校長 渡部 浩文

令和6年度 目黒区立宮前小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第2回実施日時 令和7年2月15日(土) 午前11時00分～午前11時30分
・意見交換

2 参加者

校長・副校長・学校評議員

3 評価の結果等

※四者・・・児童、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	四者※による学校評価アンケートの結果分析 ◎(成果)、●(課題)、 ⊙(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて	◎保護者の評価が改善できた。教員が日頃から時間を超えて、児童・保護者への惜しみない対応を繰り返し行っている成果である。 ●児童の評価がマイナスである。学校全体の雰囲気は昨年度よりもよいものとなっていると日頃より感じている。現状の数値との差は、タブレットによる回答であったため、項目には全て回答したが最後に送信ができなかったケースが複数あると考えている。また、記述ではないため、実際に児童がどのように感じているのか読み取れないため、課題の設定と改善策の提示が難しい。	・学校の教育情報の提供機会と発信能力を向上させ、学校教育の様子をこれまで以上に知らせていく。 ・学校行事の配列は毎年変えてはいるため、電子に加えて特に地域の方へは、紙ベースでのお知らせを配布していく。	・電子データでは受け取れない人たちもまだまだいるため、紙媒体と電子データのそれぞれのよさを生かした形での配信を望む。 ・学校からの情報は多いほうが周りにいる人間としてもありがたい。 ・例えば宮前分室に学校からの配布物が置かれたとしてもその他のものと混じってしまったり、受け取ってもらえない心配があるため、この方法はあまりよいものとは言えない。 ・児童がいつも校庭で遊んでいる様子等から仲良く遊んでいることが分かる。 ・学校は正しいことを行っている。数値に惑わされることなく、さらに自信をもって教育活動を推し進め

	◎心身の健康維持を促進するため、教職員への気配りは忘れない。		てほしい。
I 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について	◎子供たちの雰囲気がい方向へ変わり、「かかわり」のよさや大切さが子供の姿を通して浸透してきている。 40分授業午前5時間制を導入して5年目を迎え、その成果が表れていると評価をいただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「かかわりを大切にする子」を重点目標として、本校の特色ある教育環境をフルに活用した教育活動を継続して展開していく。 ・「裏庭活動」を大切に扱い、児童の「自治・選択」「協働」「チャレンジ・失敗」を後押ししていく。「たんQ」についての学校独自の定義付けができた。 ・学校裁量の時間では児童へ「自由と裁量」を渡し、児童の思いが実現できる学習空間と学習時間を提供する。」そのための学習に向かう「ルールづくり」を児童と教師が一体となって取り組んでいく。児童が自ら考えて提案した「学びのルール」を実践しながら修正を加えて、さらに高次の者としていく過程を経験させ「自治と選択」を学ばせていく。これは則ち「校則の見直し」である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・40分授業午前5時間制を導入して5年目を迎え、その成果が表れていると評価をしている。 ・広い校庭・他校にはない裏庭という恵まれた自然環境を教育活動へ活かし続けていってほしい。 ・3年生だけ、畑の境の仕切りが崩壊をしている。児童が安全に活動できたり、児童の美的な感性を養ったりする上でも、早急な修繕または、改修・新設工事を強く望む。
II 心の教育について ・道徳科(道徳)の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について	◎道徳授業地区公開講座での取り組みを保護者の方が大きく評価していただいた結果と考えている。 ●結果が下降したのは、前述と同様と考える部分と、自らを省みる力を十分に育てていく必要がある。	<p>次年度も継続して、裏庭の活用から子供たちの主体性・自治的基盤をはぐくんでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳及び全教育活動を通じて、生活指導を基盤とした心をはぐくむ指導を全教員で一致して指導していく。 ・当事者意識を醸成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動の際に見かける子供たちの様子や、日頃の様子から、あいさつがよくできていると感じる。 ・児童の様子から、どの子も優しい子供たちに育っていることを感じる。

<p>Ⅲ 学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、のびっこ、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<p>◎保護者の数値では昨年度より 6.9 ポイント上昇できた。これは全体的に落ち着きのある様子から評価されていると考える。</p> <p>◎ICT 機器の活用については 9.3 ポイント上昇している。家庭へ持ち帰らせていることもあり、活用の状況を保護者が見られる。</p> <p>●児童については、ICT 機器の操作方法等が分からず、学習にマイナスの影響を及ぼしていることが予想される。ゆっくりと丁寧な説明と指導を心がけていく。別の角度から分析してみると「検索」を行いたい、フィルタリングによって必要な情報へ辿り着けないといった思いもあることが予想されるが、この点に関しては情報モラルの学習を通じて、適正な情報を正しい道筋で得る大切さを学ばせ、児童の理解を促進している。</p>	<p>次年度も継続して、学校裁量の時間に ICT に関連して「プログラミング教育」と「機器の操作スキル」「アプリの活用スキル」の学習場面を設定する。</p> <p>ICT 機器の活用から、時間や空間に制限されない学びの保障を実現させていく。</p> <p>短時間学習と長時間学習を組み合わせた効果的な指導を進める。主体的に学習に取り組む態度や深い学びの実現へ向けて校内研究を通して進めていく。同時に教員の力量形成を図る研修を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若い先生が指導技術の高い教員に学んでいることが、授業等の様子から見て取れる。 教職員が一丸となって子供たちのために取り組んでいる様子が見られ、頼もしく感じる。 ・CBT 等の実施の際には、自分の回答が意図しているものであるのか、送信する前に確認ができるような仕様にするべきである。 ・子供自身があらゆる場面において、自己が行ったこと、発信したことを「本当によいか？」と確認する習慣を幼いころから付けてほしい。
<p>Ⅳ 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>◎保護者の数値では昨年度より 8.3 ポイント上昇できている。運動会をはじめ体力向上策が浸透し、保護者評価の上昇へつながっていると考える。</p> <p>高学年児童については昨</p>	<p>運動時間の確保や運動習慣の確立を目指すため、体力向上の取組を設定し、学校裁量の時間を活用して体力向上を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会については、参観できる場所が拡大され、さらに多くの人に見てもらえたことが評価につながっている。全校児童で一斉に実施できた事がよかった。 ・マラソン大会の実施、広い校庭をつかった運動な

	<p>年度より「できること」の範囲が広がり、「もっとやってみたい」の欲求が満たされた結果である。</p> <p>●低学年児童については「もっとやってみたい」という欲求を充足できるだけの取組がほしいと感じている。</p>		<p>ど、学校の特色を活かして推進して行ってほしい。</p>
<p>V 特別活動について</p> <p>・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の活性化などについて</p>	<p>◎保護者からの評価は改善できている。学校行事は児童の成長を間近に見られるよい機会である。今年度も多くの保護者の方に参観していただき、児童の成長や感動を目の当たりにしていただいた結果と捉えている。</p> <p>●高学年児童の数値が昨年度より 6.2 ポイント下降した。これは、児童会主催の「〇〇総選挙」等の学校生活に潤いを与える活動が前年度に比較して減ったと感じていることに起因すると考える。運動会の参観者の人数制限をなくして参観可能とした点が評価された。</p> <p>●低学年児童は経験が少ないため、比較の対象が存在しないことも考えられる。</p>	<p>縦割り班活動やクラブ活動を時間的な制約はあるものの意図的に設定し、児童同士のかかわりの場を増やしていく。高学年児童には自分たちの考えが実現していく過程を直接体験させ、実感を伴った楽しさを体得できるように、教育活動の充実を図る。</p> <p>学校行事は今年度の成果と反省を生かし、改善を進めていく。特に令和7年度から夏季休業期間が延長されることを受けて、授業時数が縮減されるため、時数確保と育てたい児童像との関連を熟考した上で、行事の精選を行う。</p>	<p>・「〇〇総選挙」やプロジェクト活動など子供発信の活動を続けて行ってほしい。これらの活動から、学校の雰囲気が盛り上がり、とてもよいものを感じる。</p> <p>・自分の意見やアイデアが学校生活をよりよくしているという実感へつながり、児童の自己有用感を押し上げている。</p> <p>・学校便りからも活性化に努めている様子がうかがえる。（防災サイコロの取組等）</p>
<p>VI 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <p>・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて</p>	<p>◎保護者からの評価は改善できている。</p> <p>●生活規律については改めて一貫した指導を充実させていく。</p>	<p>年度当初からの指導に重点を置き、学習規律や生活規律の徹底を図る。</p> <p>総合質問紙調査「i-check」の結果やスクールカウンセラーの助言を生かし、良好な人間関係を築いてい</p>	<p>・安全面から見ても、裏庭の状況は芳しいとは言えず、早急な修繕・改修または新設を行うべきである。</p> <p>・あいさつ運動ではどの子どもも一生懸命に取り組んでいた。今後も家庭の協力も</p>

		<p>く。</p> <p>裁量の時間を含め学習規律について「自由と裁量」を保証するための「ルールづくり」を児童と教師が一体となって構築していく。</p>	<p>得ながら充実させてほしい。</p>
<p><防災教育・安全指導></p> <p>・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて</p>	<p>◎保護者の数値は昨年度より上昇している。今年度も外部講師を招聘して防災教育の充実を図っているのが要因と考える。</p> <p>子供たちの教育訓練とともに、避難誘導者である教職員の研修としても活用している。</p> <p>●児童の数値では昨年度より下降が見て取れる。アンケートの時点では実施されていない学年があり、実感を伴って評価ができていない可能性がある。</p>	<p>外部講師による防災教育（防災サイコロ）は今後も継続していく。</p> <p>児童に自らの命を自ら守れるよう、毎月の避難訓練にめあてをもって取り組めるよう指導していく。</p>	<p>・外部講師を招いての防災教育・セーフティ教室・薬物乱用防止教室・避難誘導者訓練等を継続していくことが大切である。</p> <p>・安全指導を確実に行うためにも、また、安全面から見ても、裏庭の状況は芳しいとは言えず、早急な修繕・改修または新設を行うべきである。</p>
<p><幼・保・小・中連携></p> <p>・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について</p> <p>・近隣の幼稚園・保育園との連携について</p>	<p>◎目黒子供いじめ会議に参加することができた。</p> <p>保育園とのかかわりを通じて小学1年生の児童へ自らの成長を自覚させることができた。</p> <p>中学校との連携の様子を事前と事後で、保護者へ知らせる手立てを打ち、十分に理解を深めてもらった。保護者の数値では昨年度より上昇がみられている。広報が功を奏していると考えられる。</p>	<p>中学校区のあいさつ運動では、小学生・中学生・保護者・地域住民が一つになって活動でき、子供たちにとってはとてもよい経験ができていたので、継続して行っていく。</p> <p>合唱コンクールリハーサル・部活体験等の行事への参加を積極的に行うように努める。</p> <p>校区の小学校との横のつながりを大事にしながら、中学校とのよりよい連携を進める。今後も中学校との連携を強め、出前授業や部活動体験などを計画し</p>	<p>・これまでコロナ禍で交流の機会が少なかったが、今年度のように学芸会へ保育園の園児を招待する等の取り組みを続けてほしい。（宮前小学校の1年生と八雲保育園児との交流活動）</p> <p>・地域の人間が安全な人であるとの認識をもたせたいと日頃から考えている。</p> <p>なかなか実現させるには難しさを感じている。目を合わせた挨拶を心がけさせたいと思っている。</p>

		ていく。	
Ⅶ 情報の発信、家庭・地域との連携について ・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA 活動の充実などについて	◎紙媒体から徐々に電子媒体へ転換していくことで、場所や時間に制限されることなく双方向の情報やり取りが可能になり、情報共有のスピードアップが図られたこと。 冬の花火大会が3年連続で開催できたことで、地域や他校との交流をする機会を増やすことができた。 ●紙媒体でないと情報を共有できない地域の方もおられることから、ポイントは下がっていると考ええる。	徐々に紙媒体から電子媒体へ移行を進めていき、最終的には電子媒体へ統一していく。発信の仕方を工夫し、学校と保護者・地域とのつながりを深めていく。 必要に応じて紙媒体も準備していく。	・6年生が実施予定のゲストティーチャーを招いた学習活動のように、各種の人材を生かした教育活動を推進するため、各方面と連携しながら行ってほしい。 ・電子での各種の配信であると、紙媒体と比較して保護者へ届きやすい。紙であると各家庭1部であり、例えば母親は見ることができるが、父親は自分から気にかけていないと見る機会を失うことになるが、電子であれば時間や場所を選ばずに、自分の空いた時間で見ることができよう。 読みやすい紙面の工夫は続けてほしい。
Ⅷ 教員の人材育成について ・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について	◎令和5年度の肯定的評価が90.9ポイントであったのに対して、令和6年度は100.0ポイントと9.1ポイント改善され、全員が日常の業務量と、勤務時間の関係。また、教員同士のコミュニケーションの充実、管理職との関係に十分な達成感、満足感を抱いているためと推察する。 ◎研究開発学校の取組か	今年度は2名の若手教員の配置があった。全教職員で育てる意識をもって指導にあたった。 週時程の工夫から校内での学び合いの場や時間を確保し、教員としての力を身に付けさせる。チームリーダーを配置し、リーダーを中心に他教員を指導し、人材育成を図る。 教職員のキャリア等について共に考えていく姿勢	・若い先生が増えてきている様子である。日々の指導や対応も大変であると思うが、子供たちの手本となる立場にあることの自覚をもちながらがんばってほしい。

	<p>ら授業改善が順調に進められた。</p> <p>◎外部での集合型研修が行われるようになり、教員のスキルアップ向上の機会がこれまでと比較して増加している。そのため、積極的に研修への参加率が向上している。</p>	<p>を今後も貫いていく。</p> <p>「自己選択学習」「自己調整力」について、宮前小学校独自の定義付けを行った。</p>	
<p>IX 教員の働き方改革について</p> <p>・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について</p>	<p>◎水曜日の午後は会議・研修を極力入れない行事予定を組んだ。このことで自分の時間が確保できた教員が多数いる。</p> <p>◎教員用の情報端末を活用して、連絡事項や、研修材料の共有を図った。</p> <p>◎学習用情報端末を効果的に学習指導へ取り入れ、教材研究の時間や指導時間の縮減を図り、効率のよい学習指導と教材研究の実現を図っている。</p> <p>●業務分担や組織的な業務の進め方など、改善すべき点は多い。時間と職務内容を見直しさらなる働き方改革を推進していく。</p>	<p>次年度も引き続き、職員会議の回数を減らしていく。各分掌での入念な話し合いや運営委員会の活用、事前の資料配付などを工夫し、時間の効率化を図る。分掌ごとの役割や責任を明確にし、他組織でも分担をしながら進められるようにする。</p> <p>情報が確実に共有できるような組織を編成する。</p>	<p>・同学年の担任のうち、どちらかが休んだとしても、学年の学習活動が停滞することがなく、順調に行える場面を見てとても安心するとともに、お互いに支え合える素晴らしい間柄であることを感じる。</p> <p>・全ての教員が健康で元気な姿で子供に接することが大切です。</p>